

日本地質学会第119年学術大会（2012大阪）講演プログラム（ポスター）

■ 9月17日（月） コアタイム 13：00-14：20 学術交流会館

T1. 地質情報の利活用

T1-P-1

地質観光情報の開発と地域振興への活用の試み。 澤畑優理恵・池戸熙邦・石川なつみ・菊田亮太・伊佐幸文・小畑大樹・土屋沙亜武・畑中雄太・古川陽平・細井 淳

T1-P-2

インターネット配信に適した地質用語解説の作成。 井川敏恵・西岡芳晴・古川敏之

T3. 地層処分と地球科学

T3-P-1

北海道幌延地域に分布する堆積軟岩における坑道掘削に伴う割れ目の特徴。 常盤哲也・津坂仁和・松原 誠・石川泰己・小川大介

T3-P-2

山口県岩国断層の地球化学的特徴。 亀井淳志・渡邊慎吾・岩田智加・宮下由香里・間中光雄・伊藤順一・福士圭介・小林健太・渡部芳夫

T4. 地球史イベント大事件7

T4-P-1

32億年前デキソンアイランド層における黒色チャート脈の分布とその方向性。 相原悠平・坂本亮・清川昌一

T4-P-2

太古代縞状鉄鉱層のバンドの厚さの不規則性とその成因。 勝田長貴・清水以知子・高野雅夫・川上紳一・Helmstaedt H. H.・熊澤峰夫

T7. ジルコン学

T7-P-1

U-Pb年代測定に適したジルコン部位。 竹原真美・堀江憲路・外田智千・海田博司・清川昌一

T7-P-2

ジルコンのU-Pb年代を用いた阿武隈花崗岩類の新期-古期貫入関係の再検討。 昆 慶明・高木哲一

T7-P-3

天草陶石鉱床の熱水変質作用とジルコンの放射年代。 大平寛人・三浦千佳・田村明弘・荒井章司・武内浩一・田口幸洋

T7-P-4

ジルコンから読み取る沈み込み帯深部の部分融解過程。 荒川 幸・岡本和明・Yi Keewook・寺林 優

T7-P-5

古備高原アルカリ玄武岩中の捕獲岩から推定される西南日本下部地殻の構造と発達過程。 井形瑛梨・岩森 光

T7-P-6

英国ウェールズ州スリン半島のマリノアン全球凍結に関連した深海堆積物の報告。 岡田吉弘・山本伸次・Windley Brian F.・下条政徳・斉藤拓也・藤崎 渉・牧 賢志・平田岳史・丸山茂徳

R1. 深成岩・火山岩とマグマプロセス

R1-P-1

キンバーライトかんらん岩捕獲岩の構造岩石学的特徴。 木野雅史・道林克禎・片山郁夫・小宮 剛

R1-P-2

白亜紀後期大雨見山層群（岐阜県飛騨地域）中の苦鉄質火山岩の岩石学的性質。 池田知也・原山 智

R1-P-3

北部フォッサマグナ、聖山火山岩類の地質・岩石学的特徴。 笹沼貴弘・山元正継

R1-P-4

羽越地域北部に分布する中粒角閃石黒雲母花崗閃緑岩の記載岩石学的多様性とマグマプロセス。 加藤涼介・加々島慎一

R1-P-5

岐阜県南部、白川町新津北方に分布する濃飛流紋岩中の鉱物組み合わせと本質レンズの多様性。 天藤寛子・原山 智

R1-P-6

西南北海道奥尻島、米岡層火砕岩の岩石学的特徴。 久谷航平・山元正継

R1-P-7

山陰帯島根県奥出雲地域に分布する阿毘緑花崗閃緑岩の火成活動と結晶分化作用。 岩田智加・亀井淳志・岩田克彦・柴田知之

R1-P-8

北部九州東部に分布する添田花崗閃緑岩のRb-Sr全岩-鉱物アイソクロン年代。 柚原雅樹・亀井淳志・岡野 修・川野良信・加々美寛雄

R1-P-9

シート状岩脈群・上部ガブロに貫入される超苦鉄質岩体：オマーンオフィオライト北部における新知見。 金子 龍・足立佳子・宮下純夫

R1-P-10

カソードルミネッセンスを用いたジルコンの柱面における結晶成長観察。 土屋裕太・能美洋介・鹿山雅裕・西戸裕嗣

R1-P-11

紀伊半島に分布する中期中新世凝灰岩類の全岩化学組成による比較。 原川朋矢・壺井基裕・古川邦之・金丸龍夫

R1-P-12

西南日本金剛山地に分布するアダカイト質花崗岩の地球化学的特徴。 竹村建人・壺井基裕

R1-P-13

オマーンオフィオライト北部スヘイラ地域における斜長花崗岩の研究。 吉田開祐・宮下純夫

R1-P-14

笠ヶ岳コールドロン北縁地域に産する鉄カンラン石について。 小池祐貴・原山 智

R1-P-15

日高変成帯、37Maの火成活動の起源マグマ：音調津深成岩類のSr・Nd同位体比組成。 小島 萌・大橋美由希・志村俊昭

R1-P-16

熊野酸性岩類の希土類元素パターンとFe₂O₃/FeO比。 角 拓

也・壺井基裕・古川邦之・金丸龍夫

R1-P-17

沼沢火山BC3400沼沢湖噴火で噴出した4種類の本質軽石：カルデラ形成噴火を起こしたデイサイト質マグマ溜り内部の不均質性。 増淵佳子・石崎泰男

R1-P-18

日本海に産する中新世背弧海盆玄武岩のHf同位体比組成。 平原由香・仙田量子・常青・宮崎隆・高橋俊郎・木村純一

R4. 変成岩とテクトニクス

R4-P-13

East Pilbara, Mt Edger花崗岩複合岩体周辺に産するメタチャート中の電気石を用いた古差応力解析。 松村太郎次郎・木村希生・岡本 敦・増田俊明

R4-P-14

非変形olivineのCPO形成メカニズム ～antigorite→olivine反応におけるtopotaxy～。 永治方敬・ウォリス サイモン・小林広明・道林克禎・水上知行

R4-P-15

アンチグライト蛇紋岩のLPO。 曾田祐介・森下知晃・Wenk Hans-Rudolf

R4-P-16

マイクロブーディン解析による主応力軸方向の検証。 西脇 伸・大森康智・木村希生・岡本 敦・佐津川貴子・道林克禎・増田俊明

R4-P-17

スピニフェックス様組織を示すカンラン岩の多様性とその形成条件。 恵口 馨・潮崎 大・西山忠男

R4-P-18

西彼杵変成岩類におけるクロリトイドの産出とその意義。 森部陽介・西山忠男

R4-P-19

八幡浜大島に分布する大島変成岩類の年代論。 小山内康人・中野伸彦・足立達朗・北野一平・米村和紘・吉本 紋・小松正幸

R4-P-20

四国別子地域三波川帯のエクロジャイトユニット境界：銅山川沿いの変泥質岩中のざくろ石の特徴の変化。 頼綱佑衣・榎並正樹・東野外志男

R4-P-21

四国中央部三波川変成帯の温度構造の再検討 – 汗見川流域の例 –。 梅田隼人・田口知樹・榎並正樹

R4-P-22

三波川帯・西五良津岩体の変成かんらん石斜方輝岩：高温沈み込み帯のスラブ-ウェッジマントル境界岩相。 遠藤俊祐

R4-P-23

関東山地三波川帯のユニット境界構造と年代値：埼玉県長瀨町本野上露頭の解析。 新井宏嘉・宮下 敦・高木秀雄・八木公史・板谷徹丸

R4-P-24

鹿塩マイロナイトの放散虫化石とその地質学的意味。 小野 晃

※講演番号は、トピックセッション (T)、レギュラーセッション (R)、国際ワークショップ (W)、アウトリーチセッション (OR) のそれぞれに、ポスター (P) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。
※講演要旨とプログラムとで発表題目や氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。 ※太字は代表発表者です。

日本地質学会第119年学術大会（2012大阪）講演プログラム（ポスター）

■ 9月17日（月） コアタイム 13：00-14：20 学術交流会館

R4-P-25

室戸岬斑れい岩体の貫入熱モデリング. **森 宏**・ウォリスサイモン・森 なつみ・カリッキル・カ・アナン・カトリナ

R4-P-26

炭質物の石墨化におけるタイムスケールの検証. **森 なつみ**・Wallis Simon・森 宏

R4-P-27

連続反応によるコロナ構造形成の定性的モデル. **池田 剛**

R9. 炭酸塩岩の起源と地球環境

R9-P-1

北中国山東省の中部カンブリア系微生物炭酸塩岩（スロンボライト）の諸特性. **小谷綾香**・江崎洋一・足立奈津子・劉 建波

R9-P-2

秋吉帯石炭－ペルム紀石灰石鉱床におけるリンの偏在. **坂田健太郎**・中澤 努・岡井貴司・上野勝美

R9-P-3

中国湖北省崇陽地域におけるペルム紀末生物大量絶滅事変直後の微生物岩の組織変化と海洋環境の変動. **浅田雄哉**・江崎洋一・足立奈津子・劉 建波

R9-P-4

タイ国北部、三疊系Doi Long層（Lampang層群）の有孔虫年代と堆積環境. **宮東 照**・上野勝美・Charoentitirat Thasinee・鎌田祥仁

R9-P-5

高知県大月町の造礁サンゴの形態と生産. **会田美佳**・中森 亨

R12. 岩石・鉱物の破壊と変形

R12-P-1

沈み込み直前の堆積物と玄武岩の高圧下熱伝導率測定. **多田井 修**・林 為人・廣瀬大洋・谷川 亘・松林 修・向吉秀樹

R12-P-2

ドレライトガウジの非晶質化と摩擦特性に対する影響. **和田純一**・野田博之・岡崎啓史・安東淳一・金川久一・井上厚行・廣瀬大洋・片山郁夫

R12-P-3

変形速度変化に応じた摩擦強度の遷移挙動にみる摩擦と流動変形の混在. **高橋美紀**

R14. テクトニクス

R14-P-1

アナログモデル実験を用いた地質発達モデルによる隆起量の定量的推定の試み－北海道北部幌延地域の事例－. **松崎達二**・常盤哲也・中務真志・山田泰広・赤嶺辰之介・天野健治・新里忠史

R14-P-2

長野県北部地震の地殻変動と栄・津南-松之山地域の地震テクトニクス. **伊藤優花**・竹内 章

R14-P-3

九州北半部三郡変成岩類の原岩年代の拘束と2回の褶曲形成.

高地吉一・大藤 茂・小原北士・藤本辰弥・折橋裕二・春田泰宏・山本鋼志

R14-P-4

東北日本及び西南日本内・外帯の碎屑性ジルコン年代分布の比較検討（予報）. **大藤 茂**・大川泰幸・川越雄太・横川実和・森田祥子・小原北士・高地吉一・藤本辰弥・金光玄樹・下條将徳・折橋裕二

R14-P-5

秋吉帯・舞鶴帯・周防帯・丹波帯からのジルコン年代データ. **小原北士**・大藤 茂・高地吉一・藤本辰弥・折橋裕二

R14-P-6

南部フォッサマグナ、糸静線-富士川河口断層帯間断層群の断層岩解析に基づく運動センス解明. **野崎謙治**・狩野謙一・池田安隆・加藤 潔・山北 聡・大橋聖和・伊藤谷生

R14-P-7

走査型電子顕微鏡（SEM）を用いた断層破砕帯の定方位試料の微細組織観察. **亀高正男**・島田耕史・中山一彦・瀬下和芳・田中義浩・林 俊夫・下釜耕太・岡崎和彦

R14-P-8

二次元バランス断面から歪み楕円を推定. **山路 敦**

R14-P-9

Paleostress Analysis by Fault-Slip and Calcite Twin Data in the East Walanae Fault Zone, South Sulawesi, Indonesia. **Asri Jaya**・Osamu Nishikawa

R14-P-10

徳之島西部秋利神地域の泥質・砂質変成岩中のシュートタクライト様貫入岩. **上田脩郎**・山本啓司・寺林 優

R15. 古生物

R15-P-1

島根県松江市中部中新統布志名層から産出したヒゲクジラ化石および共産する化石群集. **松浦康隆**・入月俊明・河野重範

R15-P-2

モンゴルゴビ砂漠産タルボサウルスの趾骨に残された成長線とその鉱物学的特徴（予報）. **庄司雄騎**・渡部真人・実吉玄貴・西戸裕嗣・Tsogtbaatar Khishigjav

R15-P-3

北海道各地域に分布する上部白亜系上部蝦夷層群の炭素同位体比曲線とイノセラムス化石帯. **本田豊也**・平野弘道

R15-P-4

伊豆半島今井浜の白浜層群産軟体動物化石群集. **田口公則**・富田 進・井上恵介・門田真人

R15-P-5

楕円フーリエ解析を用いた現生および化石*Ruditapes*属の形態解析と進化的変遷の予察的考察. **有馬達也**・林 誠司

R15-P-6

非造礁性六射サンゴにおける出芽による無性増殖様式と群体形成. **千徳明日香**・江崎洋一・後藤慎介・徳田悠希

R15-P-7

黒瀬川帯横倉山地域中畑層におけるInaniguttidae科放散虫化石. **栗原敏之**・遠藤龍馬

R15-P-8

紀伊半島の四万十累帯上部白亜系、美山層の放散虫化石群集. **山本俊哉**

R15-P-9

南大西洋の中期始新世-前期中新世にみられる石灰質ナノ化石の変化と表層古環境変遷. **上ノ山晴貴**・亀尾浩司

R15-P-10

東部赤道太平洋海域、IODP site U1338における中期中新世から更新世の底生有孔虫群集. **辻本 彰**・野村律夫・高田裕行・木元克典

R15-P-11

新潟県西山層、灰爪層中にみられる貝形虫化石の殻サイズについて. **田中清明**・石田 桂

R15-P-12

ニュージーランドカンタベリー堆積盆地における鮮新-更新統の貝形虫化石群集を用いた古水深変動の復元. **中村めぐみ**・楠 慧子・石田 桂・保柳康一

R15-P-13

三次元幾何形態解析による浮遊性有孔虫室房形態の定量的比較. **伊藤 光**・佐々木 理・長濱裕幸

R16. 情報地質

R16-P-1

地層名検索データベースの最新版. **巖谷敏光**・鹿野和彦・斎藤 眞

R16-P-2

シームレス地質図3Dの開発. **西岡芳晴**

R16-P-3

スレッド並列を用いた地質データ補間システムの開発. **野々垣 進**・根本達也・升本眞二

R16-P-4

マルコフ確率場を用いた地質情報抽出：観測画像からの不連続構造推定. **桑谷 立**・永田賢二・岡田真人・鳥海光弘

R16-P-5

地質環境調査における意思決定過程と論理構造の表出化. **新里忠史**・大澤英昭・石丸恒存・道家涼介・中安昭夫

R16-P-6

宮崎県大崩山花崗岩体のジルコン結晶形の数値記載. **能美洋介**・北川龍志

※講演番号は、トピックセッション (T)、レギュラーセッション (R)、国際ワークショップ (W)、アウトリーチセッション (OR) のそれぞれに、ポスター (P) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。
※講演要旨とプログラムとで発表題目や氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。 ※太字は代表発表者です。